

なりたい自分をイメージしよう！

体験的対話教育法
〔 教育相談 〕
【 思ってみる指導 】

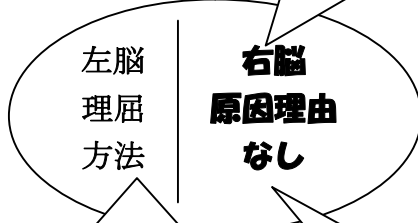


現実性獲得訓練
〔 生徒指導 〕
【 やってみる・やらせる指導 】

右脳思考でいこう

「 ~になれたらいいな~ 」

最初はできなくてもいい。
思ってみるだけでよい。



「何が出来ないか」について追い込まない。
「できる」か「できないか」に固執しない。

左脳（言語）
<どうして>
<なぜ>

右脳（日常会話）

「(ダメだか) まっ、いいか。」
「(ダメだけど) こんなもんか。」
「(ダメもとで) ~やってみるか。」
「(ダメだか) これでいいとしよう。」

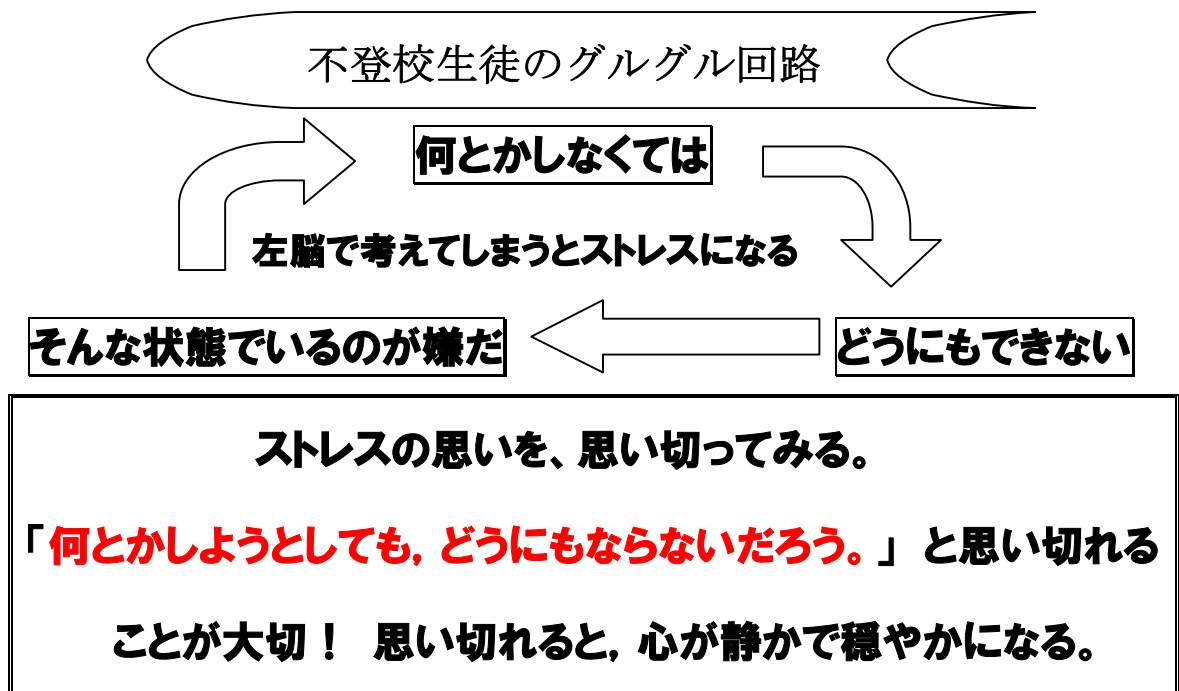
体験的対話教育法は理屈で考えさせない。

「どうして」「なぜ」「どうやって」は禁句
→ ストレス原因になりやすい。

右脳が作動する。

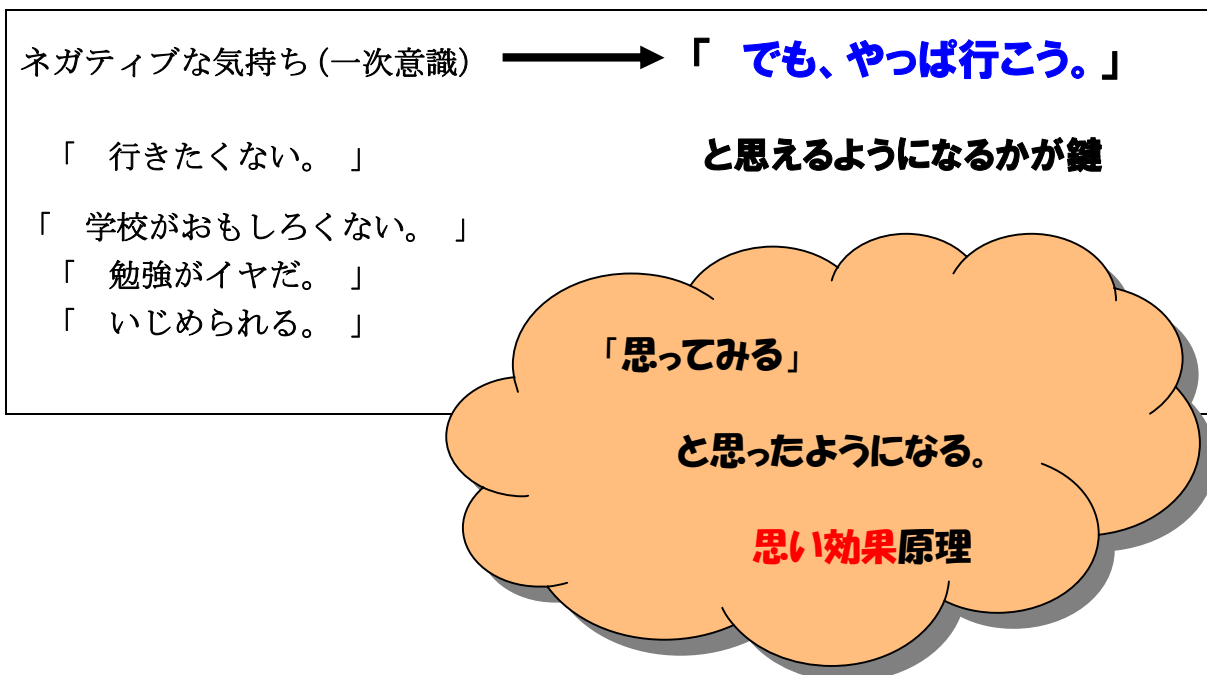
「~になれたらいいな。」と思い（願い・期待）、復唱していると、**6週間くらいで脳に思ってみる回路**ができる。回路ができると、自然に思えるようになる。

グルグル回路(左脳ストレス回路)に陥らないようにする。



不登校は“心が新たに育つ”と改善する教育発達のな問題

脳に新しい回路を作る



「心が新たに育つ」

具体的方法

聞き出す対話より、聞かせる対話

子どものマイナスの気持ちを大切に扱い、隠さない。

1 「聴く」= 子どもの話をきく

* 子どもの話には差し出がましいことを言わず、耳を傾け聞く。

たとえネガティブなものであっても・・・

「あんたの言うとおり」

「そう思っている事も大事！」

「そう 思っていていいよ。」

「～だよね。」

2 「訊く」= 子どもに質問する

* 子どもの願いを訊く発問が大切

「で、どうなりたい？」

「で、どうなれたらいい？」

「で、どうなっていけたらいい？」

*注 「思い」を確認するのであって、「行動」ではないことに留意

3 「提示する」= 「わかんない、どうでも」などと言われたら 子どもに聞かせる。

* 好ましい思いを一人称台詞表現で提示し、子どもに聞いてもらう

「行けたらいいなぁ～」と覚えておこうよ。

「聞いてみる」と「思ってみる」は同じ脳内反応

聞いたことでも、自発的に思ってみたことと同じになる。

4 「復唱させる」= 子どもに復唱させる（右脳回路が形成）

＊ 教師が聞かせた**一人称台詞表現**を，子どもに**復唱**してもらう。

「先生が言ってみたように，君もいってごらん。」

実感が無くても，心がこもっていなくても口に出して言ってみると，それはすでに行為していることになる。

聞かせる対話 具体例

① 家を訪問して、話をしない生徒に対して・・・

表現には、子どもが使っている一人称台詞の言葉を使おう！

聞かせよう！ 一人芝居表現

「おまえなんか話す事ねーよ。」 っと思っているんだろうなあー。

そんな思いはあっているけど、でも、

「せっかく来てくれたんだから話してやってもいいか。」 っ pensando みようよ。

「なんでそんな事答えなくちゃいけないんだ。」 っと思っているだろう。

わかってる。でもなあー

「まっ 答えてやるか。」 っ pensando みてみてもいいんじゃない。

教師が，発問と回答の両方を，あたかも対話しているかのように一人称台詞表現で，一人芝居風に言って聞かせてみる。

ちょうど，子どもと教師の二役を，一人で演じる一人芝居をみせて，それを聞いてもらうような対話にする。

② 不登校の生徒に対して・・

子どものマイナスの思いを受け止めて、プラスの思いに繋ぐ対話

「学校なんて行きたくない。」 でも
「行ってみるか。」とっておこうよ。

「教室に入るのこわい。」 でも
「入りたいな。」とっておこうよ。

「人とうまく話せない。」 でも
「誰とでも自由に話したい。」と思えるといいね。

「かったるいなー。」 でも
「何かやりたいな。」と思えるといいね。

「あいつ頭にくる。」 でも
「仲良くしとくか。」としてみるか。
「許してやっか。」

生徒

教師

「みんなに嫌われている。」
「みんなが悪口を言う。」
「みんながジロジロ見る。」 } 「そんなの当たり前とっておこうよ。」

「学校に来るのがいやだ。」 「そういう気持ちはあっていいからさ。」
「学校へいきたいなあー」って思えるといいね。